

発達障害に対する理解と対応 —「生徒指導提要」—

校内の支援体制

- 発達障害を含む障害のある特別な教育的ニーズに対する支援については、校内の支援体制がうまく機能するように、**特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会で検討する。**
- 学校生活における困難な状況の背景には、個人が抱える課題と教職員や周りの児童生徒との人間関係や学習環境に関する課題の両面が影響している。**個別的な指導や支援だけでなく、学級全体の全ての児童生徒への指導や支援から学級の中での個別的な指導や支援、そして、必要に応じて個別的な場での指導や支援を階層構造で考える。**
- まず、発達障害のある児童生徒を含む全ての児童生徒を対象に学級全体での指導や支援を行う。**分かりやすい授業、認め合い、支え合う学級集団が基盤になる。**学級全体への指導や支援だけでは不十分な場合は、学級の中で個別的な指導や配慮を工夫する。

また、本人や保護者の意向や個々の障害の状態等によっては、「**通級による指導**」の活用も考えられる。本人及び保護者の意向を踏まえつつ、必要に応じて市町村教育委員会等とも連携し、適切な学びの場及び学習方法を検討することが必要である。**「通級による指導」の実施にあたっては、通常の学級の担任・教科担任と通級担当教員等との連携を図り、切れ目ない支援を行う。**



習慣を育てる

映画監督・映画プロデューサー/スティーブン・スピルバーグ

大きなことを夢見よう。決して途中であきらめてはいけない。
あなたを成功へと駆り立てるような習慣を育てるのだ。

出典：「賢人たちに学ぶ 道をひらく言葉」 本田季伸著（かんき出版）

※ 大きな目標は、習慣に支えられた日課の積み重ねによって達成されることを、子どもたちに伝えたいものです。